

研究・調査報告書

報告書番号	担当
127	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Failure to reduce drinking and driving in France: a 6-year prospective study in the GAZEL cohort. フランスにおける飲酒運転の減少の失敗 : GAZEL コホートによる 6 年間の前向き研究	
執筆者	
Constant A, Lafont S, Chiron M, Zins M, Lagarde E, Messiah A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2010 Jan;105(1):57-61.	
キーワード	
飲酒運転、予防策、取り締まり	
要旨	
背景 : 予期しないアルコール消費量の減少と交通事故死亡率との関連が近年、フランスにおいて観察されている。しかし、それらの変化は飲酒運転(DWI)によるものかは明らかではない。道路での速度超過、アルコール消費量と DWI との関係について 2001 年から 2007 年の間ドライバーのコホートを用い検討した。	
方法 : 参加者は 1989 年に匿名を条件としたフランス電力会社の従業員と退職者を対象とした研究コホートの対象者とした。アルコール消費量についての二つの質問を含む年一回の質問票が対象者に送付された。2001 年と 2007 年には、10684 名の対象者は同一の自記式の質問票で運転行動について報告した。	
結果 : 2001 年から 2007 年の間に、10684 名の参加者のうち制限速度より 20km/h 以上超過すると答えたものの割合は市街地区間で 23.7%から 4.1%($P < 0.001$)、その他の道路では 34.3%から 9.3%($P < 0.001$)、高速道路では 24.3%から 2.7%($P < 0.001$)に減少した。恒常的、非恒常的な過剰飲酒はそれぞれ 22.7%から 19.7%と 18.0%から 14.9%にそれぞれ減少した。一方で DWI は 22.9%から 25.3%($P < 0.001$)に増加した。	
結論 : 近年、フランス政府による交通違反の取り締まりは DWI を抑止するのは失敗している。DWI は散発的で、めったに罰せられない行動のようである。予防するには、より強制的な手段、たとえば、呼気中のアルコールによる運転抑止装置などが必要である。	